

# 令和5年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 2 健康で安心な生活基盤の整備

<b>主要課題</b>	No. 25	適正な医療保険制度の運営
-------------	--------	--------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ● 主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4年後の目指す姿	高齢化の加速により、急激な医療費の増加にならないよう、健康や医療費に関する区民の理解が深まるとともに、データヘルスの考え方に基づく保健事業が展開されることで、医療費の適正化や安定的な医療保険制度の運用が図られている。
計画期間の方向性	○健康や医療費に関する理解の促進 ジェネリック医薬品の普及や、医療費に関する理解促進に取り組むとともに、糖尿病性腎症の重症化予防を推進し、国民健康保険被保険者負担の軽減と、将来に向けた医療費の抑制を図ります。

## 0 昨年度の施策の方向性（昨年度の点検における「4 今後どのように進めていくか」）

医療費通知やジェネリック医薬品差額通知等を送付したことによる成果が数値に反映されるには、一定の時間を要することが考えられるため、これらの通知を継続して送付するとともに、状況に応じたアプローチをすることで、自身の健康や医療費に関する理解の促進を図ります。  
糖尿病重症化予防事業における保健指導の参加勧奨は、専門職による電話勧奨が効果的です。引き続き、積極的な利用勧奨を行うとともに、新型コロナウイルスの感染状況にあわせて遠隔面談への切替を希望に応じて行うなど、柔軟に対応することで、より多くの対象者にアプローチしていきます。

事業費（令和4年度） 上段：実績 下段：当初予算

## 1 どのような事業で・何をしたか（実績）

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割						事業費(千円)
96	糖尿病性腎症重症化予防事業	国保年金課	糖尿病性腎症の重症化を防止し、将来的な医療費の抑制を図る。						5,834千円 (7,901千円)
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	① 糖尿病重症化予防の実施	人	—	26	17	19	17		
	② 糖尿病重症化予防事業修了者フォローアップ	人	—	—	10	6	5		
97	医療費の適正化	国保年金課	ジェネリック医薬品の普及や、薬の重複や誤用による健康被害等、医療費に関する理解を促進する。						6,878千円 (10,264千円)
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	① ジェネリック医薬品差額通知の送付	件	5,091	11,083	16,224	14,281	9,965		
	② 医療費通知の送付	件	33,908	33,090	31,389	30,676	30,612		

## ●特記事項（実績の補足）

## 2 現総合戦略において、社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）

人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。

チェック	チェック項目
有	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）
有	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）

高齢化による医療需要の増や支え手である現役世代の人口減、医療の高度化等により、医療費は年々増加しています。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が重なったことで医療給付費が増加し、保険料率等の引上げにつながりました。

後期高齢者の保険料引き上げ等が盛り込まれた全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保健法等の一部を改正する法律が成立し、令和5年5月に公布されました。ジェネリック医薬品は、引き続き市場供給量が安定せず、薬局での取扱量にも影響を及ぼしているため、先発薬からの切替が難しいとされています。引き続き動向を見守りながら、対処していきます。

### 3 現総合戦略における成果や課題は何か (点検・分析)

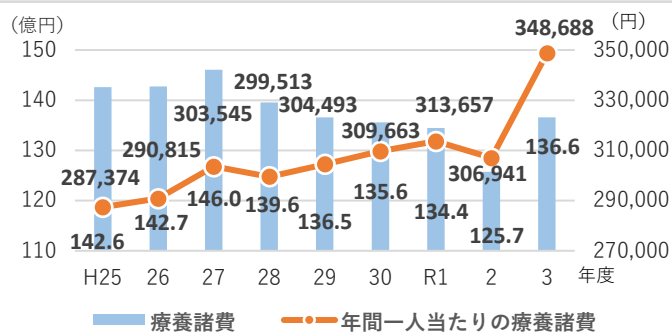
1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じていないか」などを点検・分析します。

#### ○健康や医療費に関する理解の促進

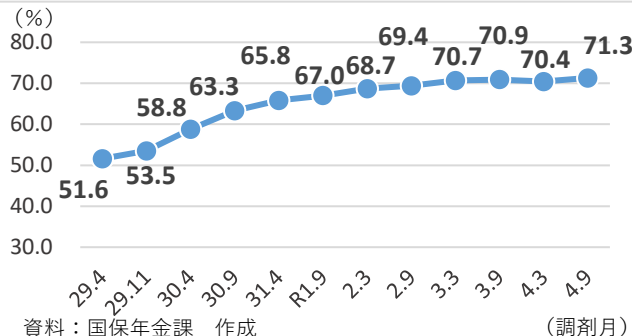
糖尿病性腎症重症化予防事業は、健康寿命の延伸及び医療費抑制の両面から有効な取組の一つですが、結果としてすぐに表れるものではなく、地道な取組が必要です。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、対面での実施が困難な状況にありましたが、着実に取組を進めてきました。令和2年度から導入したWEBによる遠隔面談を活用する等、今後、利用者の利便性を高め、参加を一層促していく必要があります。

ジェネリック医薬品への切替促進については、薬剤師会への聴取により、引き続き供給量が不安定なこと、患者本人が希望されない等、様々な理由から切替が困難であるということがわかりました。引き続き薬剤師会とも連携し、切替促進に取り組んでいきます。

#### ●療養諸費等の推移



#### ●ジェネリック医薬品使用率(数量ベース)



### 4 次期総合計画において、どのように進めていくか(展開)

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、令和6年度から9年度までの次期総合計画の計画期間における戦略としての進め方を記しています。

自身の健康や医療費に関する理解の促進を図るため、今後も医療費通知やジェネリック医薬品差額通知等を継続して送付するとともに、状況に応じたアプローチを進めていきます。

また、令和6年度からを計画期間とする次期データヘルス計画に基づき、糖尿病重症化予防事業やその他の保健事業について効果的かつ効率的に実施していきます。

### 5 6年度、事業をどうするか(事業の見直し)

主要課題に紐づけられている個々の計画事業の6年度の検討の方向性を「継続」「レベルアップ」「見直し・縮小」「事業終了」「計画変更」で記します。

事業番号	計画事業名	所管課	次年度の方向性
96	糖尿病性腎症重症化予防事業	国保年金課	継続
97	医療費の適正化	国保年金課	継続